

スケールアウト型の高速NAS「FlashBlade」を導入してバックアップデータを約半分にまで圧縮、バックアップソリューション「Veeam」との組み合わせで運用負荷の大幅低減とバックアップ処理の一元管理も実現



会社名:

マネックスグループ株式会社
<https://www.monexgroup.jp/jp/>

用途:

グループ内ファイルサーバのバックアップ

地域:

東京都(日本)

業種:

リテール向けオンライン証券ビジネスとクリプトアセットビジネスをコアとしたグローバルなオンライン金融業

課題:

- バックアップの速度が遅いこと
- バックアップ処理の結果把握が困難
- 障害発生時にかかる多大な運用の手間

ITの変革:

- バックアップデータを約半分に削減
- バックアップの処理結果が一元的に把握可能に
- 万一の障害発生時の高速リストアも担保

ビジネスの変革:

- 運用に関わるマンパワーの大幅削減
- ストレージおよびデータセンターコストの低減

バックアップに時間がかかり、処理結果を一覧で確認することもできなかった

マネックスグループ株式会社は2004年8月に設立されて以来、一貫して個人投資家向けオンライン証券事業を基軸にサービスを展開してきました。現在では日本に加えて米国や香港、オーストラリアでもオンライン証券事業を展開し、日米で仮想通貨サービスを提供するクリプトアセット事業にも参入、顧客基盤の拡大を図ると同時に、変化する顧客ニーズに応えるための挑戦を続けています。

2020年6月には、割安な水準にあると言われる日本の株式市場の評価向上に貢献するため、グループの力を結集して公募投信「マネックス・アクティビスト・ファンド」を組成し、運用を開始しました。この取組みの中で、個人投資家による株主としての適切な権利行使を促進し、同時に個人投資家の声を日本企業に届ける活動に注力しています。

これまで同社では、グループ企業の従業員が利用するファイルサーバのバックアップ用として、主にHDDを搭載したストレージやファイルサーバを利用していましたが、多くの課題を抱えていました。以前の状況について、人事部IT担当の高橋友樹氏は、次のように説明します。

「まず挙げられるのはバックアップの処理速度が遅いことで、規定の時間までに終わらないことが多々ありました。またエラー発生時には自動でリトライがかかる仕組みなので、管理者が貼り付いている必要はなかったのですが、“何時に、どのバックアップが、どのように取られたのか”という処理結果を一覧で確認することができなかったのです。これらは非常に大きなストレスでした」。

さらにもう1つ、運用管理面から同社を非常に悩ませていたのが、ストレージに搭載されたHDDが度々障害を起こすことでした。

「HDDが故障した際には、まずITベンダに連絡して交換用のパーツを調達してもらうのですが、それに時間がかかり、さらに我々がデータセンターに足を運んで平均3~4時間は交換作業をする必要がありました。効率的な運用管理を実現するためには、耐障害性の高いストレージ環境が必要でした」

FlashBlade+Veeamの組み合わせで、一元管理可能なバックアップ環境を構築

バックアップ処理に多大な手間がかかり、一元的な管理を行うことも難しかった同社。そこで新たなバックアップツールを採用し、バックアップ先のストレージとして、HDDを利用しないオールフラッシュの製品にリプレイスすることを決定しました。そうして採用されたのが、ピュア・ストレージの提供するスケールアウト型の高速NAS製品「FlashBlade」と、バックアップソリューション「Veeam」の組み合わせでした。

「ストレージについては4製品を比較したのですが元々使っていたものが多く、ピュア製品については2017年から、グループ内の仮想共通基盤で利用するオールフラッシュ・ストレージとしてピュア・ストレージの製品を利用しており、処理速度の速さや耐障害性・安定稼働性の高さ、重複排除機能によるデータ削減効果は、肌感覚で分かっていました。製品導入に当たっては、当然コストも大きな判断材料となりましたが、この点でも今回採用したFlashBladeには、アドバンテージがありました」。

一方バックアップツールとしてのVeeamもコストメリットが非常に大きく、事前に試用した際の管理画面の見やすさやスケジューリングのしやすさが、採用の決め手になったとのこと。

お客様について:

1999年に創業したマネックス証券や仮想通貨取引所を運営するコインチェックを傘下にもつ持ち株会社。創業当初から先見性と多様性を軸とするガバナンス体制を構築し、システムの内製化を始めとした自立経営を追求している。現在では、企業の成長に必要な3つの要素とされるEnvironment（環境）・Social（社会）・Governance（企業統治）を重視するESG経営にも積極的に取り組んでおり、マネックスグループ全体の事業と社会に与える影響の重要性を整理したマテリアリティ・マトリックスを策定して事業基盤の強化を目指し、さらに様々な社会課題への対応を進めている。



マネックスグループ株式会社
人事部 IT担当
高橋 友樹氏

FlashBladeの採用で約50%のデータ圧縮効果を獲得、ITコストの低減にも大きく貢献

同社はFlashBladeの導入をVeeamと併せて2018年1月に完了しました。現時点で2年半以上が経過していますが、既に数多くの効果を獲得しています。

<圧縮機能による約50%ものデータ削減>

「FlashBladeの圧縮機能によって、約50%ものデータ削減を実現できています。これはストレージ自体のコスト削減だけでなく、データセンタの省スペース化、ひいてはデータセンタコストの低減にまで繋がる非常に大きな効果だと考えています」。

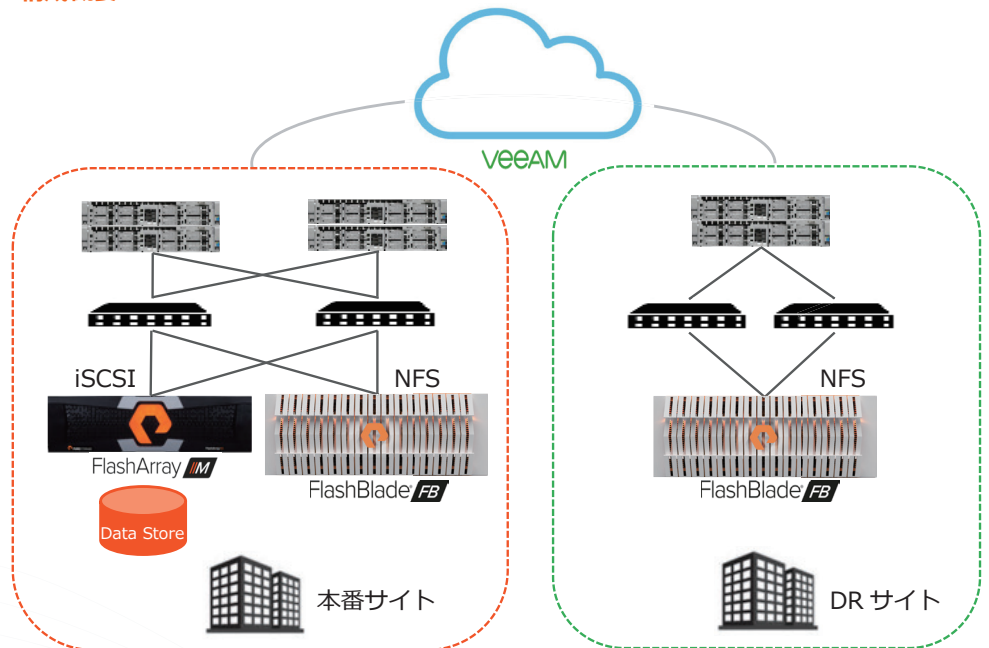
<FlashBlade+Veeamによる高速リストア>

「これはファイルサーバ側に何らかの障害が発生して、FlashBladeからリストアしなければならないという時に効いてくるメリットですが、FlashBladeはスループットが非常に高く、Veeamとの組み合わせでリストアを高速に行うことが可能です。今のところ我々は使ったことがありませんが、他のユーザ企業からは高い評価を得ていると聞きました。万一の迅速な障害対応という観点からは心強い仕組みと思われれます」。

運用負荷の大幅な軽減

同社では、最初の導入からさらに台数を加え、現在では複数拠点でFlashBladeを利用しています。

「HDDを搭載しないオールフラッシュNASのFlashBladeを採用したことで、障害頻度は大幅に減りました。耐障害性が飛躍的に向上したということで、これは安定稼働性にも繋がってくる効果です。バグ発生などのアラートは上がってきますが、実際の障害発生までに及んだものは、これまで1件もありません。この2年半の間、データセンタにいて作業したことも皆無です。我々の運用負荷は大幅に減りましたね。こうした意味でもFlashBladeは、他の企業や金融機関様にとっても非常に有用となるソリューションではないでしょうか。今後もピュア・ストレージには随時、有用な情報をインプットしていただきたいと思います」と話す高橋氏。

構成概要

ピュア・ストレージ・ジャパン株式会社
お問い合わせ: 03-4563-7443(代表)

<http://www.purestorage.com/jp/contact.html>